

令和5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	アカガイ	対象水域	瀬戸内海
担当機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 生産技術部、徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課、大阪府立環境農林水産研究総合研究所 水産研究部、兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 水産環境部、岡山県農林水産総合センター 水産研究所、香川県水産試験場 環境資源部門、山口県水産研究センター 内海研究部、福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所	協力機関名	

1. 調査の概要

徳島県、大阪府、香川県、岡山県の主要水揚げ地における漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量、ならびに兵庫県における漁獲量、山口県、福岡県における漁獲努力量当たり漁獲量の情報収集を実施した。

徳島県では、徳島市漁協で水揚げされた紀伊水道の漁獲量情報を収集した。

大阪府では、泉佐野漁協で水揚げされた大阪湾の漁獲量情報を収集した。

兵庫県では、情報を得られた播磨灘沿岸の1漁協における漁獲量情報を収集した。

香川県では、播磨灘沿岸の3漁協（引田、東讃、内海）、備讃瀬戸沿岸の庵治漁協、燧灘沿岸の2漁協（三豊市、伊吹）で水揚げされた漁獲量情報を収集した。

岡山県では、播磨灘沿岸の牛窓町漁協所属の標本船8隻および備讃瀬戸沿岸の寄島町漁協所属の標本船1隻における漁獲量情報を収集した。

山口県では、周防灘で漁獲され新宇部漁協および山口県漁協（宇部岬支店、床波支店、新南陽支店）で水揚げされた漁獲量情報と、伊予灘で漁獲され山口県漁協（光支店、田布施支店、平生町支店、四代支店）で水揚げされた漁獲量情報を収集した。

福岡県では、周防灘沿岸の複数漁協における漁獲量情報を収集した。標本船の操業日数が漁業者の事情によって大きくばらつくことから、複数漁協の標本船の中から信頼できるデータの標本船を1日1隻選定し、そのCPUEを漁獲量情報とした。

2. 漁業の概要

本種は主に手繰第三種（桁網）で漁獲されるが、県によって手繰第二種（えびこぎ網）による混獲が含まれる。漁期は通年だが、府県によっては禁漁期の設定や貝毒による出荷規制が実施されており、その影響で漁獲量が変動する。特に、2020年は新型コロナウイルスによる消費減少が漁獲量に影響したと言われている。また、漁協によっては水揚げ箱数や水揚げ金額に基づいた漁獲量が計上されることがある。これらの事情から、漁獲量が資源量を反映しているとは言えない。漁獲量は海域によって異なる推移を示し、

直近10年間（2013～2022年）では徳島県、大阪府、香川県が他県に比べて高く（図1、表1）、漁獲努力量当たり漁獲量は徳島県、山口県が突出して高い（図2、表2）。大阪府および香川県における漁獲努力量は20年前の約3割に低下しているが（表3）、当該海域における漁獲量との関連性は明らかでない。

徳島県では、桁網で漁獲される。漁獲量情報を得られた徳島市漁協では、アカガイ漁を主とする漁業者のほかに価格変動に応じてクマエビ漁からアカガイ漁に切り替える漁業者があり、その影響でアカガイ漁獲量の変動する。漁獲努力量は2010年をピークに減少傾向にあり（表3）、漁獲量は2016年を除く2015～2019年に増加し、2020年に急減したものの、2021年以降再び増加している（図3）。

大阪府では、大阪湾を主漁場として石桁網で漁獲される。泉佐野漁協では、2月以降に貝毒による出荷規制が実施されることが多く、当該月および当該年の漁獲量が減少する（図4、5）。おおよそ10年に1～2回の頻度で卓越年級の発生が見られる（図5）。1980～2018年の漁獲量は最大でも8トン以下で推移していたが、2019年以降は急激に増加している（図5）。一方で、漁獲努力量は2018～2019年を除いて減少傾向にある（表2）。

兵庫県では、桁網で漁獲される。漁獲量を把握できた県内の1漁協における過去20年間（2003～2022年）の漁獲量は概ね1トン以下と少ないが、2005年と2015～2016年には1.7トン超が漁獲されている（図6）。

香川県では、主に桁網で漁獲されるが、えびこぎ網による混獲も含まれる。2002～2013年の漁獲量は播磨灘、備讃瀬戸、および燧灘で軒並み減少傾向である。2014年以降は燧灘のみ増加したものの、2019年をピークに再び減少している（図7）。

岡山県では、主に桁網で漁獲され、一部は潜水器漁業でも漁獲されている。第3種桁網による漁期は11月～翌年4月で、5～10月にかけてはその他の漁法で漁獲されることがある。牛窓町漁協で水揚げされるアカガイの総漁獲量は2015年の0.75トンを除いて概ね0.5トン以下で推移しており、そのうちアカガイ漁のみを行う8隻の標本船による漁獲量は平均67%を占めている（図8）。標本船における2010～2015年の年間漁獲量は微増傾向であったが、その後は毎年増減を繰り返しながら減少している（図8）。直近3年間（2020～2022年）の月別漁獲量は11月～翌年5月に増加する傾向がみられる（図9）。寄島町漁協の標本船1隻における2020～2022年の漁獲量は14 kg以下と極めて少なく、2021年および2022年はほぼ漁獲されていない（表1）。

山口県では、桁網で漁獲され、漁期は11月～翌年4月である。標本船（周防灘9隻、伊予灘4隻）におけるCPUEは、周防灘で2012～2018年、伊予灘で2015～2017年に増加し、その後は減少傾向にある（図10）。

福岡県では、主に桁網で漁獲されるが、えびこぎ網でも漁獲される。2020年のCPUEは前年から半減したが、以降は増加傾向にある（図11）。

3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：北海道以南の日本列島全域および朝鮮半島沿岸の水深 5～50 m の軟泥底に分布する（林 2006、桜井 1986）。日本国内で漁業が行われていた海域は限定されており、1965年当時、大村湾、福岡湾、瀬戸内海、東京湾、仙台湾、陸奥湾な

どであった（菅野ほか 1965）。生産方法は天然と養殖があり、仙台湾、七尾湾では天然、陸奥湾では養殖されている（Sugiura et al. 2014）。アカガイは泥分率 90%以上の海域や水深 10 m 前後の泥底を好んで生息する（浮 2011、桜井 1986、日本水産資源保護協会 1980、高見ほか 2002）。生息水深や底質環境は海域により異なり、仙台湾の操業海域は、水深 20～30 m（矢倉・鈴木 2019）の砂泥あるいは泥質とされる（佐々 2012）。また、1985 年当時、陸奥湾では水深 30～50 m、芦崎湾では水深 5～10 m で漁獲された（宝多ほか 1985）。

- (2) 年齢・成長：受精後約 30～40 日程度の浮遊幼生期を過ごした後、殻長 230～300 μ m で着底期を迎え、足糸を使って海底の器物に着生する（浮 2011、伊丹ほか 1970）。殻長 25 mm 前後で足糸を切って底泥中での自由生活を開始する（浮 2011）。寿命は、一般的に 10 年前後と考えられているが（林 2006）、七尾湾と仙台湾で採取されたアカガイの推定最大年齢は、それぞれ 6 年と 20 年であった（Sugiura et al. 2014）。最大殻長は 12 cm 前後と言われるが定かではない。1 年で殻長 6～6.5 cm、2 年で 7.5～8 cm、3 年で 9～9.5 cm に成長するとされている（奥谷 1994）。1 年で殻長 4.1～6.1 cm、2 年で 5.5～7.8 cm、3 年で 6.9～9 cm（南西水研 1978）と言う報告もある。Age Length key (Lt: 殻長 mm, t: 年齢) が作成されており、陸奥湾では $Lt=80.1(1-\exp(-0.365(t+0.160)))$ 、七尾湾では $Lt=115.3(1-\exp(-0.478(t-0.162)))$ 、仙台湾では $Lt=84.8(1-\exp(-0.473(t+0.222)))$ となっている（Sugiura et al. 2014）。貝の成長は夏に止まると考えられており、水温が高い海域で成長が早い（Sugiura et al. 2014）。2 年目以降の個体が漁獲対象となる（浮 2011）。
- (3) 成熟・産卵：生物学的最少型は殻長 5.5～6.5 cm とされ、生後約 1 年に該当する（林 2006）。産卵期は、宮城県石巻湾で 8 月中旬～9 月中旬（松浦・阿部 2006）、山口県笠戸湾で 7 月上旬～9 月中旬（沼口 1995）、佐賀県伊万里湾で 5 月下旬～10 月頃であり（江口・千々波 2012）、産卵盛期は概ね 8～9 月である。産卵が始まる臨界水温は 18℃とされる（松浦・阿部 2006）。仙台湾では、海底水温が 18～20℃に達すると、順次浅所側から産卵が開始されると推察されている（佐々木 1997）。殻長 6 cm の 2 歳貝で 500～1,000 万粒、殻長 12 cm の天然貝で 3,000 万粒の採卵例がある（山口県 2012）。殻長(x)と卵巣重量(Y)の関係式($\text{Log}Y=6.7\text{Log}x-12.3$)から、抱卵量は 4 歳貝が 480 万粒、5 歳貝が 1,070 万粒、6 歳貝が 1,880 万粒、7 歳貝が 2,740 万粒との計算もある（佐々木 1997）。
- (4) 被捕食関係：ろ過食者であり、微細藻類をはじめとする水中の懸濁有機物を摂食するが、食性の詳細についてはわかっていない。種苗生産における浮遊幼生飼育では、人為的に培養可能な *Chaetoceros* や *Pavlova* などの微細藻類を飼料とすることで生産される（今井・西川 1969、伊丹ほか 1970）。ヒトデ類、肉食性巻貝類、魚類、タコ類から被害を受ける（山口県 2012）。特にヒトデ類による放流種苗への被害が問題となっており、対策が検討されている（高見ほか 1981）。ハナツメタガイ、エゾタマガイ等による稚貝の被害も観察されており、発生 1 年後の殻長 10～20 mm の付着生活期まではヒトデ、その後殻長 30～40 mm の泥中生活期はツメタガイ類による捕食が大きいと考えられる（佐々木 1997）。

4. 資源状態

本種の漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量は、地域によって禁漁や貝毒による出荷規制の影響を受けるほか、漁協によっては水揚げ箱数による計上値を含んでおり、漁獲量を資源量の指標とできるか否かは今後より詳細な検討を要する。また、県によっては漁獲情報の蓄積年数が少なく、県海域を代表する漁獲量情報が得られているとは言い難い。

徳島県では2008～2021年の14年間における桁網のCPUEの最大値と最小値の間を三等分した基準に基づいて2022年の資源水準を「中位」と判断した(図3)。しかし、これは紀伊水道における資源水準であり、瀬戸内海の資源水準および動向について統一的な評価を行うことは困難である。

5. その他

現状では資源状態の判断が困難な府県が多いことから、まずは資源状態を評価するための正確な漁獲量データの蓄積を進める必要があるものの、本種を目的とした漁業が少ないことに加え、資源の減少によって漁獲実態の把握が困難になりつつある。

人工種苗放流のほか、地まきや垂下養殖による養殖手法の開発および生産が行われている(江口・千々波 2012、江口ほか 2007、高見ほか 2002)。

6. 引用文献

- 江口泰蔵・千々波行典 (2012) 佐賀県伊万里湾における地まき養殖アカガいの成熟. 佐賀県玄海水産振興センター研究報告.5: 47-51.
- 江口泰蔵・真崎邦彦・千々波行典 (2007) 佐賀県伊万里湾における養殖アカガいの成長, 生残について. 佐賀県玄海水産振興センター研究報告.4: 31-37
- 林 勇夫 (2006) 二枚貝綱「アカガイ」. 水産無脊椎動物学入門. 恒星社厚生閣, 東京. 137-138.
- 今井丈夫・西川信良 (1969) ホタテガイ・アカガいの種苗量産.水産増殖. 16: 309-316.
- 伊丹宏三・丹下勝義・山内幸児・竹田文弥・浜口 章 (1970) アカガいの種苗生産に関する研究-I 水槽採苗について. 水産増殖.18: 25-34.
- 松浦裕幸・阿部修久 (2006) 石巻湾におけるアカガイ資源に関する研究. 宮城水技研報. 6: 59-64.
- 南西水研 (1978) 貝類の生物学並びに増養殖技術に関する既往資料. 南西海区ブロック会議貝類技術部会(瀬戸内海区・四国グループ). 1-53.
- 日本水産資源保護協会 (1980) 水生生物生態資料. 258-261.
- 沼口勝之 (1995) アカガイ人工種苗の養殖漁場における成熟過程. 日水誌. 62: 384-392.
- 奥谷喬司 (編) (1994) 水産無脊椎動物Ⅱ 有用・有害種各論 新水産学全集6. 恒星社厚生閣, 東京.
- 桜井良三編 (1986) 決定版生物図鑑貝類. (株)世界文化社.
- 佐々修司 (2012) 仙台湾のアカガイ資源の加入量変動特性とそれに基づく漁業量減少リスクを緩和するための漁業管理方策の研究. 東北大学学位論文(農博第 1028 号).

- 佐々木良 (1997) 仙台湾におけるアカガイ加入初期過程に関する再検討. 宮城水セ研報. **15**: 69-79.
- 菅野薄記・赤星静雄・佐々木鉄郎・中尾 繁・田村 正 (1965) V 陸奥湾におけるあかがい漁業—昭和 40 年度の現存量と生態、底質について—. 青森県陸奥湾水産増殖研究所業務報告書. **10**: 99—123.
- Sugiura D, S Katayama, S Sasa and K Sasaki (2014) Age and Growth of the Ark Shell *Scapharca broughtonii* (Bivalvia, Arcidae) in Japanese Waters. J. of Shellfish Research, **33**: 315-324.
- 高見東洋・井上 泰・岩本哲二・桃山和夫・中村達夫・吉岡貞範 (1981) アカガイの増殖に関する研究—II 食害生物特にヒトデの駆除効果について. 水産増殖. **29**: 47-56
- 高見東洋・金井大成・原川泰弘・河村和寛 (2002) アカガイの新養殖技術の開発に関する研究(2). 山口県水産研究センター研究報告. **1**: 59-64
- 宝多森夫・川村 要・須川人志・松坂 洋・千葉 熙 (1985) 芦崎湾のアカガイおよびエゾイシカゲカイの特徴について. 青森県水産増殖センター事業報告. **14**: 316—322.
- 浮 永久 (2011) 種類別主要魚介藻類生産法—二枚貝類「アカガイ」. 改訂水産海洋ハンドブック, 竹内俊郎ほか編, 生物研究社, 東京. 316.
- 矢倉浅黄・鈴木貢治 (2019) 仙台湾南部海域におけるアカガイ調査の結果について. 宮城水技研報. **19**: 45—48.
- 山口県 (2012) アカガイ. 栽培てびき(改訂版). 108-115.

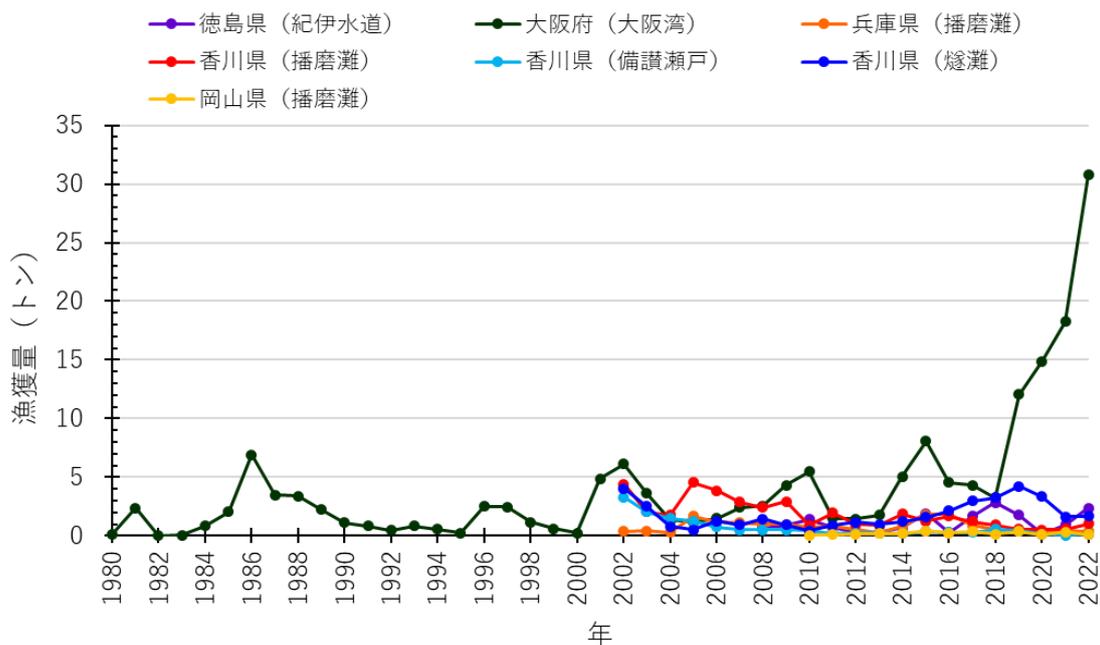


図1. 徳島県、大阪府、兵庫県、香川県、岡山県におけるアカガイ漁獲量の推移

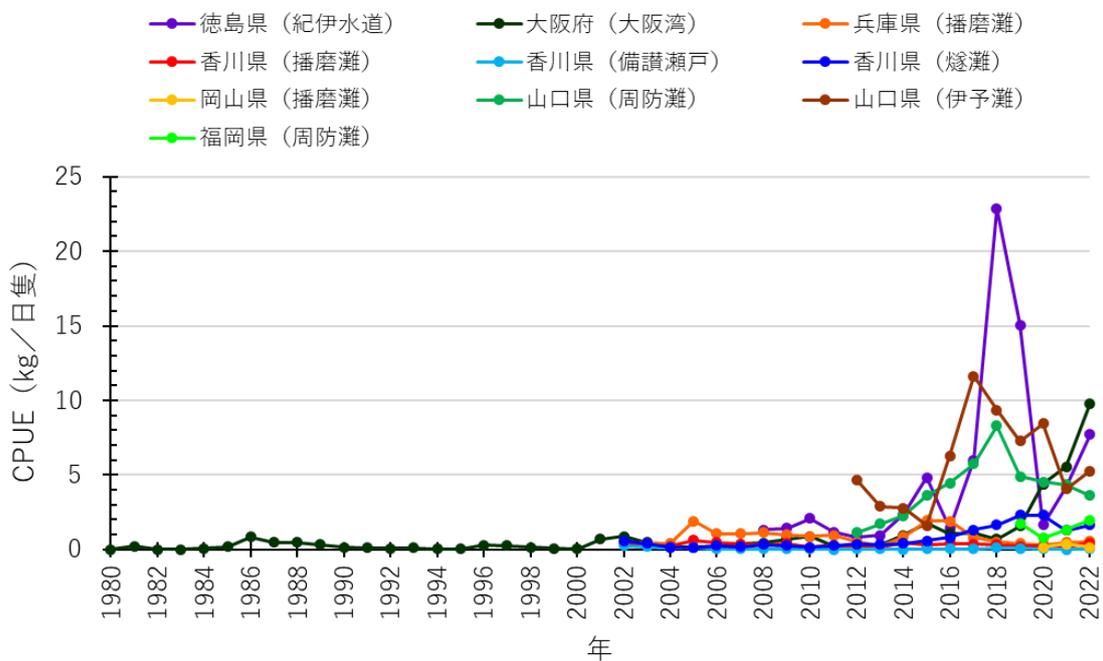


図2. 徳島県、大阪府、兵庫県、香川県、岡山県、山口県、福岡県におけるアカガイの漁獲努力量当たり漁獲量の推移

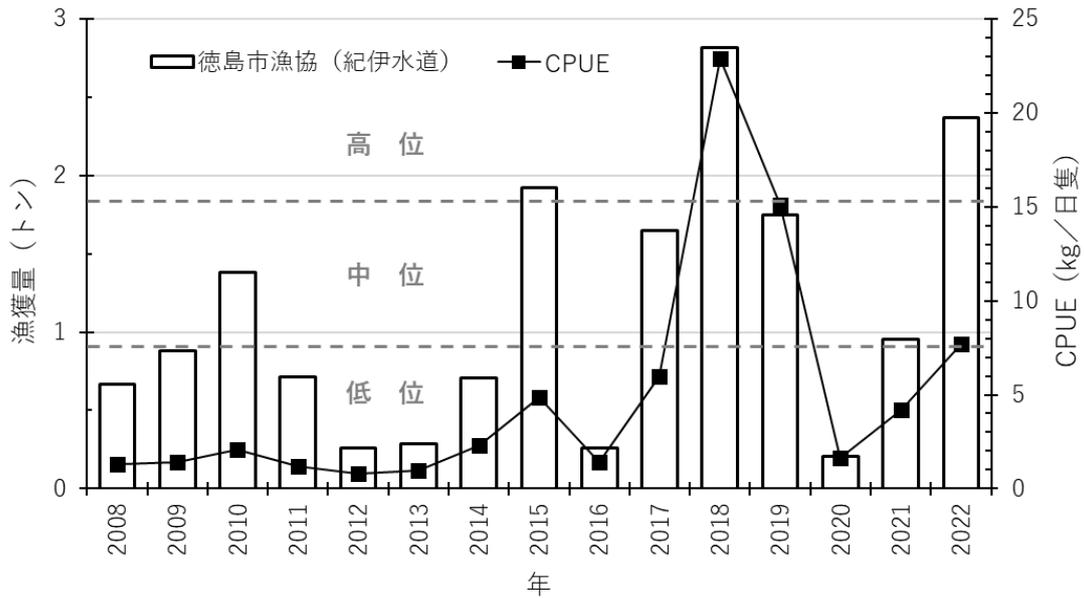


図3. 徳島県（徳島市漁協）におけるアカガイ漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量の推移 資源水準の高位／中位、中位／低位の境界を破線で示した。

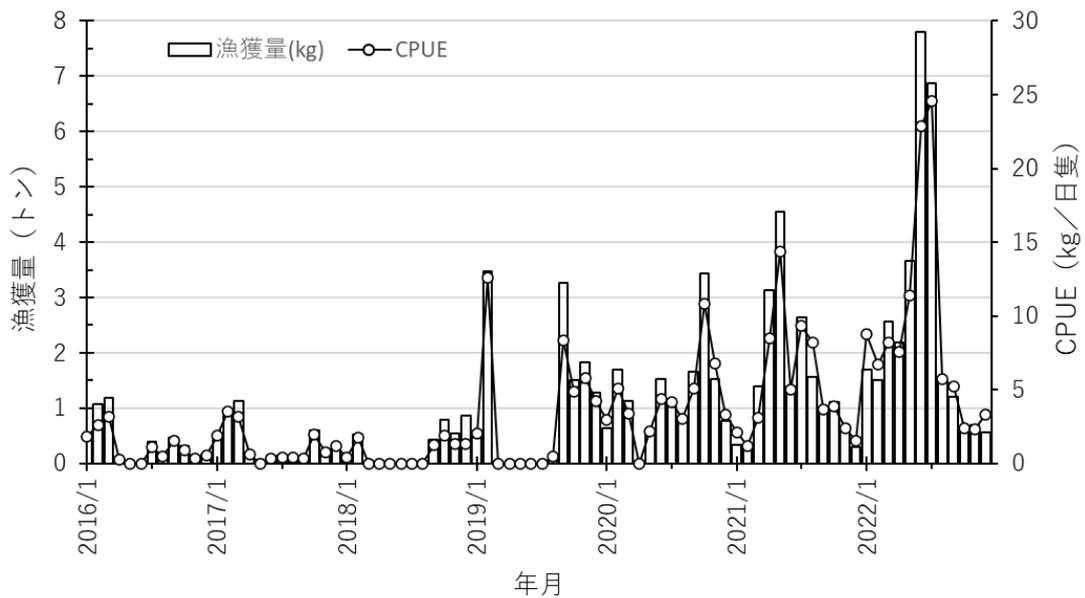


図4. 大阪府（泉佐野漁協）における2016～2022年のアカガイ月別漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量の推移

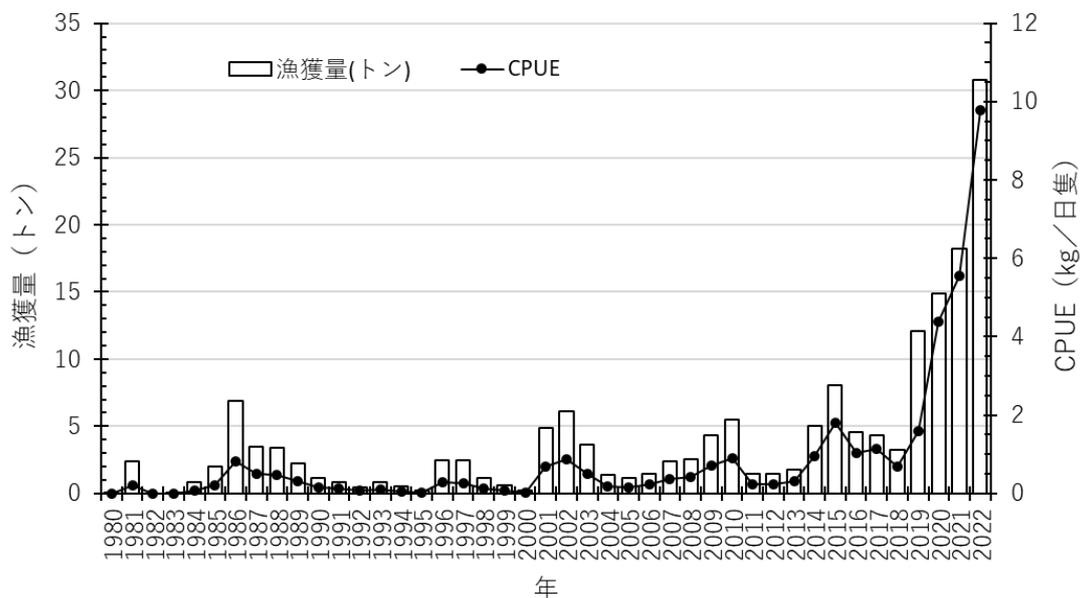


図 5. 大阪府（泉佐野漁協）におけるアカガイの漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量の推移

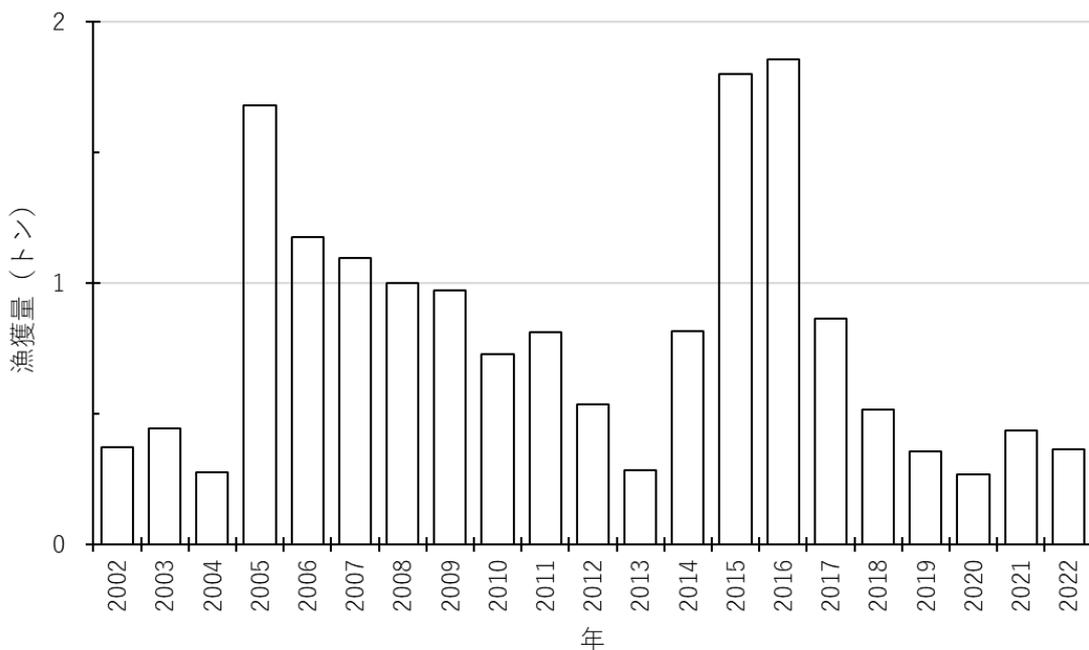


図 6. 兵庫県の 1 漁協（播磨灘海域）におけるアカガイの漁獲量の推移

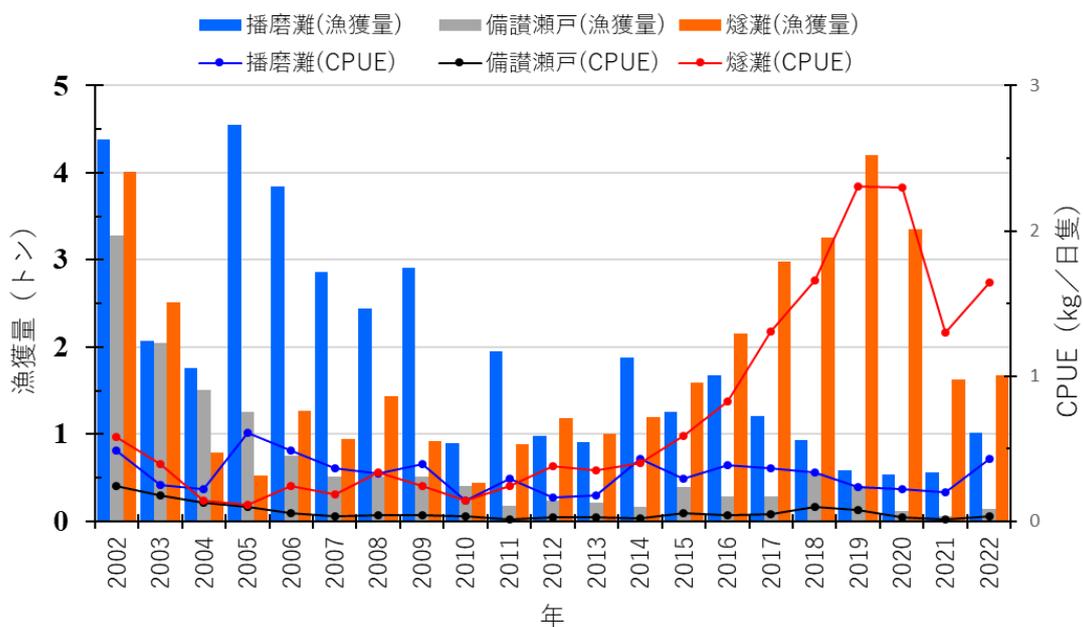


図 7. 香川県におけるアカガイの漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量の推移



図 8. 岡山県（牛窓町漁協）におけるアカガイの漁獲量の推移

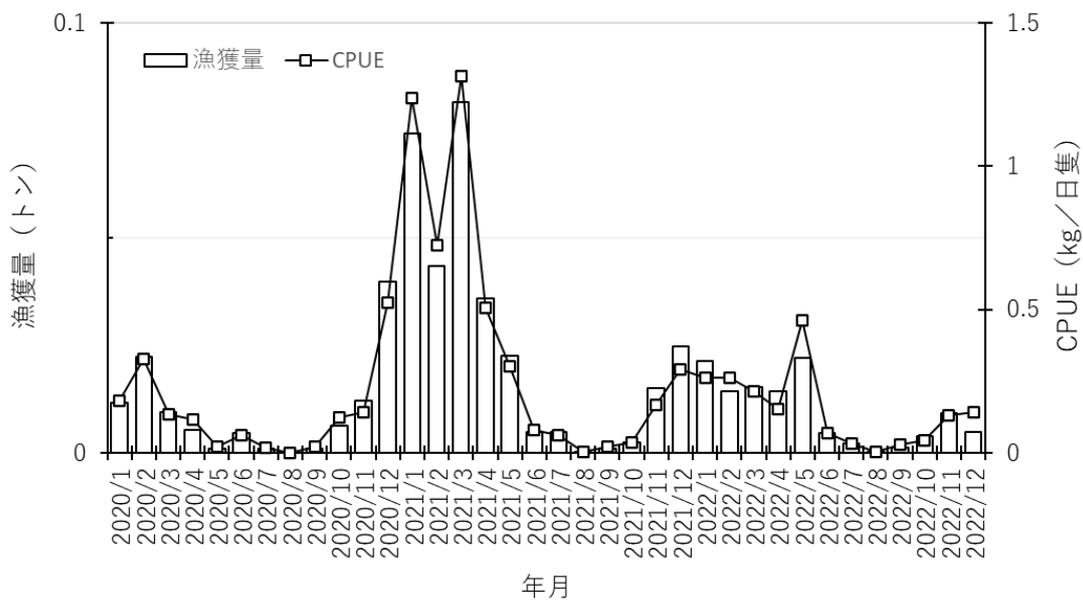


図9. 岡山県（牛窓町漁協）における月別のアカガイ漁獲量および漁獲努力量当たり漁獲量の推移

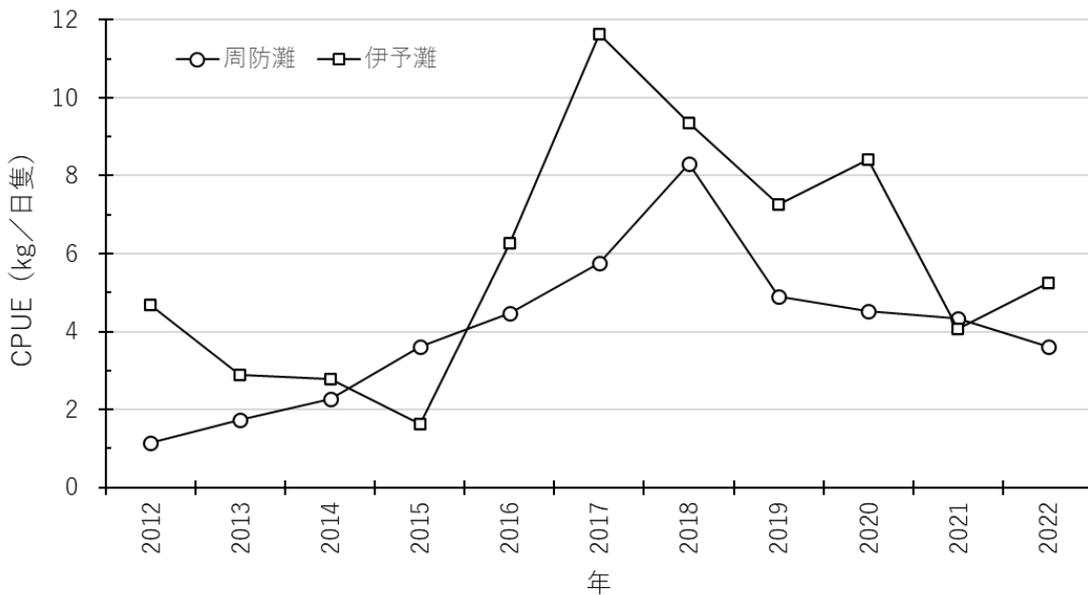


図10. 山口県におけるアカガイの漁獲努力量当たり漁獲量の推移

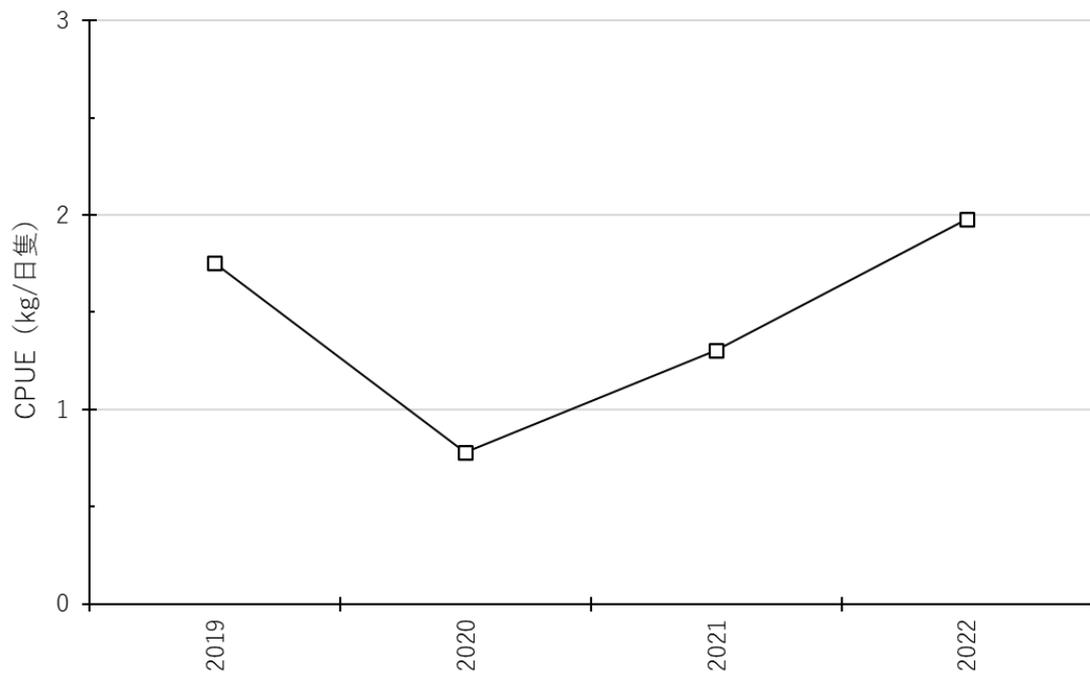


図 11. 福岡県におけるアカガいの漁獲努力量当たり漁獲量の推移

表 1. 徳島県、大阪府、兵庫県、香川県、岡山県におけるアカガイの年間漁獲量（単位はトン）

年	徳島県 ^{※1}	大阪府 ^{※2}	兵庫県 ^{※3}	香川県			岡山県	
				播磨灘 ^{※4}	備讃瀬戸 ^{※5}	燧灘 ^{※6}	播磨灘 ^{※7}	備讃瀬戸 ^{※8}
1980	-	0.09	-	-	-	-	-	-
1981	-	2.39	-	-	-	-	-	-
1982	-	0.00	-	-	-	-	-	-
1983	-	0.05	-	-	-	-	-	-
1984	-	0.84	-	-	-	-	-	-
1985	-	2.03	-	-	-	-	-	-
1986	-	6.93	-	-	-	-	-	-
1987	-	3.50	-	-	-	-	-	-
1988	-	3.41	-	-	-	-	-	-
1989	-	2.23	-	-	-	-	-	-
1990	-	1.14	-	-	-	-	-	-
1991	-	0.84	-	-	-	-	-	-
1992	-	0.47	-	-	-	-	-	-
1993	-	0.85	-	-	-	-	-	-
1994	-	0.55	-	-	-	-	-	-
1995	-	0.25	-	-	-	-	-	-
1996	-	2.50	-	-	-	-	-	-
1997	-	2.45	-	-	-	-	-	-
1998	-	1.17	-	-	-	-	-	-
1999	-	0.62	-	-	-	-	-	-
2000	-	0.24	-	-	-	-	-	-
2001	-	4.88	-	-	-	-	-	-
2002	-	6.12	0.37	4.39	3.29	4.02	-	-
2003	-	3.60	0.45	2.07	2.05	2.51	-	-
2004	-	1.35	0.28	1.76	1.50	0.78	-	-
2005	-	1.17	1.68	4.55	1.25	0.52	-	-
2006	-	1.47	1.18	3.84	0.75	1.27	-	-
2007	-	2.41	1.10	2.86	0.52	0.95	-	-
2008	0.66	2.55	1.00	2.44	0.51	1.44	-	-
2009	0.88	4.33	0.97	2.91	0.51	0.92	-	-
2010	1.38	5.50	0.73	0.90	0.41	0.44	0.06	-
2011	0.71	1.50	0.81	1.95	0.17	0.88	0.08	-
2012	0.26	1.42	0.54	0.97	0.24	1.18	0.14	-
2013	0.28	1.75	0.28	0.90	0.22	1.00	0.19	-
2014	0.71	5.04	0.82	1.87	0.17	1.20	0.19	-
2015	1.92	8.08	1.80	1.26	0.40	1.59	0.41	-
2016	0.26	4.54	1.86	1.67	0.28	2.15	0.22	-
2017	1.65	4.30	0.87	1.21	0.29	2.98	0.37	-
2018	2.81	3.26	0.52	0.93	0.55	3.26	0.15	-
2019	1.75	12.05	0.36	0.58	0.41	4.20	0.35	-
2020	0.21	14.87	0.27	0.54	0.12	3.35	0.12	0.01
2021	0.95	18.25	0.44	0.56	0.06	1.63	0.31	0.00
2022	2.37	30.78	0.36	1.01	0.14	1.68	0.11	0.01

※1 徳島市漁協における漁獲量に基づく

※2 泉佐野漁協における漁獲量に基づく

※3 情報を得られた1漁協における漁獲量であり、県海域全体における漁獲量ではない

※4 引田漁協、東讃漁協、内海漁協における漁獲量の合算値

※5 庵治漁協における漁獲量

※6 三豊市漁協、伊吹漁協における漁獲量の合算値

※7 牛窓町漁協所属の標本船8隻による11～4月の漁獲量に基づく

※8 寄島町漁協所属の標本船1隻による11～4月の漁獲量に基づく

表 2. 徳島県、大阪府、香川県、岡山県、山口県および福岡県におけるアカガいの漁獲
努力量当たり漁獲量（単位は kg/日隻）

年	徳島県 ^{※1}	大阪府 ^{※2}	香川県			岡山県		山口県		福岡県 ^{※10}
			播磨灘 ^{※3}	備讃瀬戸 ^{※4}	燧灘 ^{※5}	播磨灘 ^{※6}	備讃瀬戸 ^{※7}	周防灘 ^{※8}	伊予灘 ^{※9}	
1980	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-
1981	-	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-
1982	-	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-
1983	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-
1984	-	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-
1985	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
1986	-	0.83	-	-	-	-	-	-	-	-
1987	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
1988	-	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-
1989	-	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-
1990	-	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-
1991	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-
1992	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
1993	-	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-
1994	-	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-
1995	-	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
1996	-	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-
1997	-	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-
1998	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-
1999	-	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-
2000	-	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
2001	-	0.68	-	-	-	-	-	-	-	-
2002	-	0.86	0.49	0.24	0.58	-	-	-	-	-
2003	-	0.50	0.25	0.18	0.39	-	-	-	-	-
2004	-	0.18	0.22	0.13	0.15	-	-	-	-	-
2005	-	0.16	0.61	0.10	0.12	-	-	-	-	-
2006	-	0.23	0.49	0.05	0.24	-	-	-	-	-
2007	-	0.38	0.36	0.04	0.18	-	-	-	-	-
2008	1.31	0.42	0.33	0.04	0.33	-	-	-	-	-
2009	1.43	0.70	0.40	0.04	0.24	-	-	-	-	-
2010	2.08	0.89	0.14	0.04	0.14	-	-	-	-	-
2011	1.18	0.24	0.30	0.02	0.25	-	-	-	-	-
2012	0.83	0.24	0.16	0.02	0.38	-	-	1.14	4.67	-
2013	0.96	0.31	0.18	0.03	0.35	-	-	1.72	2.90	-
2014	2.33	0.96	0.43	0.02	0.40	-	-	2.27	2.79	-
2015	4.84	1.80	0.30	0.06	0.59	-	-	3.61	1.62	-
2016	1.41	1.05	0.39	0.04	0.82	-	-	4.47	6.27	-
2017	5.98	1.14	0.37	0.05	1.31	-	-	5.75	11.64	-
2018	22.87	0.68	0.34	0.10	1.66	-	-	8.30	9.36	-
2019	15.07	1.59	0.23	0.08	2.30	-	-	4.91	7.26	1.75
2020	1.65	4.37	0.22	0.03	2.30	0.16	0.14	4.52	8.43	0.78
2021	4.18	5.55	0.20	0.01	1.30	0.38	0.06	4.34	4.06	1.30
2022	7.72	9.78	0.43	0.03	1.65	0.15	0.08	3.61	5.26	1.98

※1 徳島市漁協における漁獲情報に基づく

※2 泉佐野漁協における漁獲情報に基づく

※3 引田漁協、東讃漁協、内海漁協における漁獲量および出漁日数の合算値に基づく

※4 庵治漁協における漁獲情報に基づく

※5 三豊市漁協、伊吹漁協における漁獲量および出漁日数の合算値に基づく

※6 牛窓町漁協所属の標本船8隻による11～4月の漁獲情報に基づく

※7 寄島町漁協所属の標本船1隻による11～4月の漁獲情報に基づく

※8 新宇部漁協、山口県漁協における漁獲情報に基づく

※9 山口県漁協における漁獲情報に基づく

※10 県内複数漁協のうち、日毎に選定した異なる漁協の漁獲情報に基づく

表3. 徳島県、大阪府、香川県、岡山県におけるアカガイの年間出漁日隻数（単位は日隻）

年	徳島県※1	大阪府※2	香川県			岡山県	
			播磨灘※3	備讃瀬戸※4	燧灘※5	播磨灘※6	備讃瀬戸※7
1980	-	10,385	-	-	-	-	-
1981	-	10,885	-	-	-	-	-
1982	-	10,475	-	-	-	-	-
1983	-	9,677	-	-	-	-	-
1984	-	11,124	-	-	-	-	-
1985	-	10,326	-	-	-	-	-
1986	-	8,324	-	-	-	-	-
1987	-	7,049	-	-	-	-	-
1988	-	7,074	-	-	-	-	-
1989	-	6,874	-	-	-	-	-
1990	-	6,959	-	-	-	-	-
1991	-	6,497	-	-	-	-	-
1992	-	6,826	-	-	-	-	-
1993	-	7,568	-	-	-	-	-
1994	-	9,852	-	-	-	-	-
1995	-	8,229	-	-	-	-	-
1996	-	8,660	-	-	-	-	-
1997	-	9,123	-	-	-	-	-
1998	-	8,811	-	-	-	-	-
1999	-	8,019	-	-	-	-	-
2000	-	7,171	-	-	-	-	-
2001	-	7,151	-	-	-	-	-
2002	-	7,084	8,979	13,451	6,953	-	-
2003	-	7,248	8,305	11,606	6,364	-	-
2004	-	7,702	7,975	11,510	5,382	-	-
2005	-	7,235	7,434	13,014	4,476	-	-
2006	-	6,478	7,895	13,932	5,242	-	-
2007	-	6,421	7,872	13,693	5,197	-	-
2008	508	6,013	7,356	12,398	4,303	-	-
2009	619	6,159	7,360	11,447	3,745	-	-
2010	664	6,161	6,221	11,481	3,081	-	-
2011	603	6,274	6,575	10,579	3,601	-	-
2012	312	5,998	6,071	9,744	3,096	-	-
2013	295	5,657	5,123	8,582	2,857	-	-
2014	305	5,279	4,351	8,358	2,989	-	-
2015	396	4,488	4,248	6,977	2,707	-	-
2016	185	4,337	4,282	6,853	2,608	-	-
2017	276	3,784	3,274	6,132	2,279	-	-
2018	123	4,757	2,783	5,682	1,965	-	-
2019	116	7,602	2,483	5,357	1,822	-	-
2020	126	3,398	2,422	4,693	1,455	733	97
2021	228	3,289	2,827	3,937	1,255	816	53
2022	307	3,146	2,344	4,401	1,018	765	69

※1 徳島市漁協における出漁日数に基づく

※2 泉佐野漁協における出漁日数に基づく

※3 引田漁協、東讃漁協、内海漁協における出漁日数の合算値に基づく

※4 庵治漁協における出漁日数に基づく

※5 三豊市漁協、伊吹漁協における出漁日数の合算値に基づく

※6 牛窓町漁協所属の標本船8隻による11～4月の出漁日数に基づく

※7 寄島町漁協所属の標本船1隻による11～4月の出漁日数に基づく